

トップアスリートによる講演 & 運動教室

学校名 周防大島町立久賀中学校（山口県）全学年

全校生徒数 50名（男子24名 女子26名）
(本実践に係る問合せ先)

電話番号 0820(72)0089

学校メールアドレス kukatyuu@sea.icn-tv.ne.jp

1 実践（研究）のねらい

- (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたオリンピック・パラリンピック教育を推進し、運動・スポーツへの関心を高めることで、子どもの運動習慣の定着・改善を図る。
- (2) 著名なスポーツ選手によるデモンストレーションや講演から、子どもたちが自らの生き方について考えるとともに、運動や体力向上についての意欲を高める。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 事前学習

- (1) 生徒会保体委員会による全校生徒対象のオリンピック・パラリンピックに関するアンケートを実施し、その結果を公表した。このことで生徒の興味・関心を高めた。
- (2) チラシを作成し、保護者や町内全中学校や近隣小学校、町内のサッカースポーツ少年団等に配布したり、近隣の公共施設や民間店舗等に掲示したりして、地域・他校への啓発活動を行った。
- (3) 寄贈していただいた書籍等を活用し、生徒玄関正面に「オリパラ図書コーナー」を設置し、生徒の興味・関心を高めた。

2 トップアスリートの講演及び運動教室

- (1) 元日本代表サッカー選手 岩政大樹氏を講師としてお招きし「No Pain No Gain」と題し、講演していただいた。当日は生徒による司会で進行した。目標をもち、どんなときでも努力を続けることの大切さをこれまでの経験を踏まえ熱く語ってくださり、聴く者に大きな感動を与えた。また、会場の一角に『オリパラ・コーナー』を設置し、啓発活動を行った。
- (2) 講演終了後、場所を長浦スポーツ海浜スクエアに移し、本校生徒や近隣小学生・中学生が参加し、運動教室を実施した。岩政氏の「考えるサッカー」への熱い指導に、子どもたちは当然のこと、見学に来た地域の方々も新鮮な刺激を受けた。

○成果の意義

- 1 参加した児童・生徒や地域の方々のオリンピック・パラリンピックに対する理解が深まるとともに、スポーツや運動に対する関心意欲が高まった。
- 2 生徒は自らの生き方について、「目標」をもつことの大切さや、「努力」を続けることの大切さを学んだ。

○今後の課題

- 1 この企画を機会に生涯スポーツへの意識を高めるとともに、生徒の運動習慣の定着・改善を図っていく。
- 2 この企画で学んだ「目標を持ち、努力を続ける」ことを、生徒の今後の生き方に活かせるよう指導を続ける。

○ 研究内容

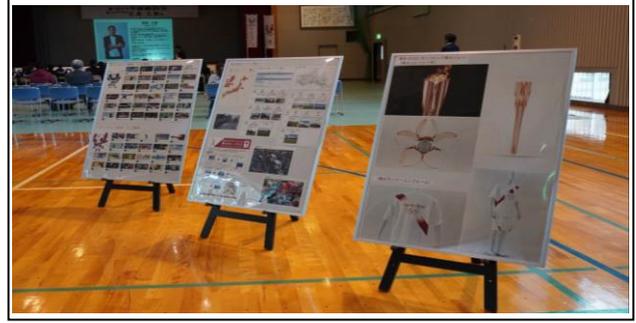
オリパラ図書コーナーの設置

オリパラに関する書籍やアンケート結果等を設置した。



オリパラコーナーの設置

講演会場にオリパラに関わる資料を展示した。



岩政大樹氏による講演

『No Pain No Gain』と題し講演していただいた。



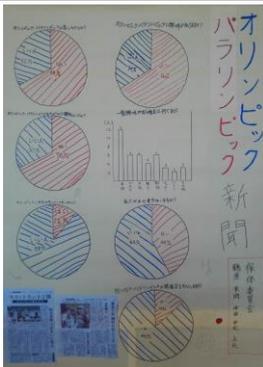
岩政大樹氏による運動教室

本校生徒、近隣の小・中学生と一緒に活動した。



オリパラ事業前後の生徒の変化

事前アンケートと事業後の感想からわかること



事前アンケートでは、オリンピック・パラリンピックに対する意識が低く、スポーツや運動に対する習慣も、個々により大きな差が見られた。

事業後の生徒の感想から、オリンピック・パラリンピックに対する理解が深まり、スポーツや運動に対する関心意欲が高まったことがわかった。また、生徒は自らの生き方について、「目標」をもつことの大切さや、「努力」を続けることの大切さを学んだことがわかる。このことは当事業がスポーツ・運動だけでなく、子どもたちの生き方にまで好影響をおよぼした事業であったことがいえる。

今後の取組について

事業後の学校の取組の方向性

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催向け、「オリパラ図書コーナー」を常設とし、生徒会にその運用を任せ、オリンピック・パラリンピックの気運を高めていくとともに、スポーツ・運動への関心をさらに高めていく。
- 生徒の運動習慣の定着・改善を図る中で、スポーツ・運動を通して自らの生き方について考える機会を設け、心身ともに健全に成長していくよう様々な教育活動を活用していく。

